

「19th EAFONS 開催委員会」

和文名称： 第19回東アジア看護学研究者フォーラム
英文名称： 19th East Asian Forum of Nursing Scholars (19th EAFONS)
会期： 平成28年(2016年)3月14日(月)・15日(火)
開催場所： 幕張メッセ国際会議場 千葉市美浜区中瀬2-1
主催者： 一般社団法人 日本看護系大学協議会
開催大学： 千葉大学

1. 構成員

国際交流推進委員会の下に、開催大学(千葉大学)にて組織する「19th EAFONS 開催委員会」を置き、開催事務局、式典・懇親会部会、プログラム部会、抄録編纂部会、広報渉外部会、実行委員会を設置し、国際交流推進委員会と千葉大学開催委員会との連携協働により、企画・運営にあたった(組織図を参照)。

1) 委員

○国際交流推進委員会

鈴木志津枝(委員長:神戸市看護大学)

グレッグ美鈴(神戸市看護大学)、牧本清子(大阪大学)、丸光恵(甲南女子大学)

○千葉大学 19th EAFONS 開催委員会

代表:宮崎美砂子

副代表:中村伸枝

事務局長:諏訪さゆり

庶務委員長:石丸美奈 庶務副委員長:辻村真由子、永田亜希子

会計委員長:増島麻里子 会計副委員長:池崎澄江

式典・懇親会部会長:北池正 副委員長:中山登志子、田中裕二

プログラム部会長:手島恵 副委員長:森恵美

抄録編纂部会長:正木治恵 副委員長:黒田久美子、野崎章子

広報渉外部会長:酒井郁子 副委員長:石橋みゆき

実行委員会委員長:和住淑子 副委員長:小宮山政敏、坂上明子

監事:眞嶋 朋子、彌富 敏治

ほか、合計57名

2) 協力者

査読者:日本看護系大学協議会会員校60大学より285名

座長:日本23名、海外13名

実行委員:79名(大学院生33名を含む):千葉大学67名、他10大学12名

ボランティア:59名(学部生及び大学院生45名を含む):千葉大学54名、他大学5名

ポスターアワード選考委員:日本21名

懇親会パフォーマンス提供:千葉大学看護学部生16名

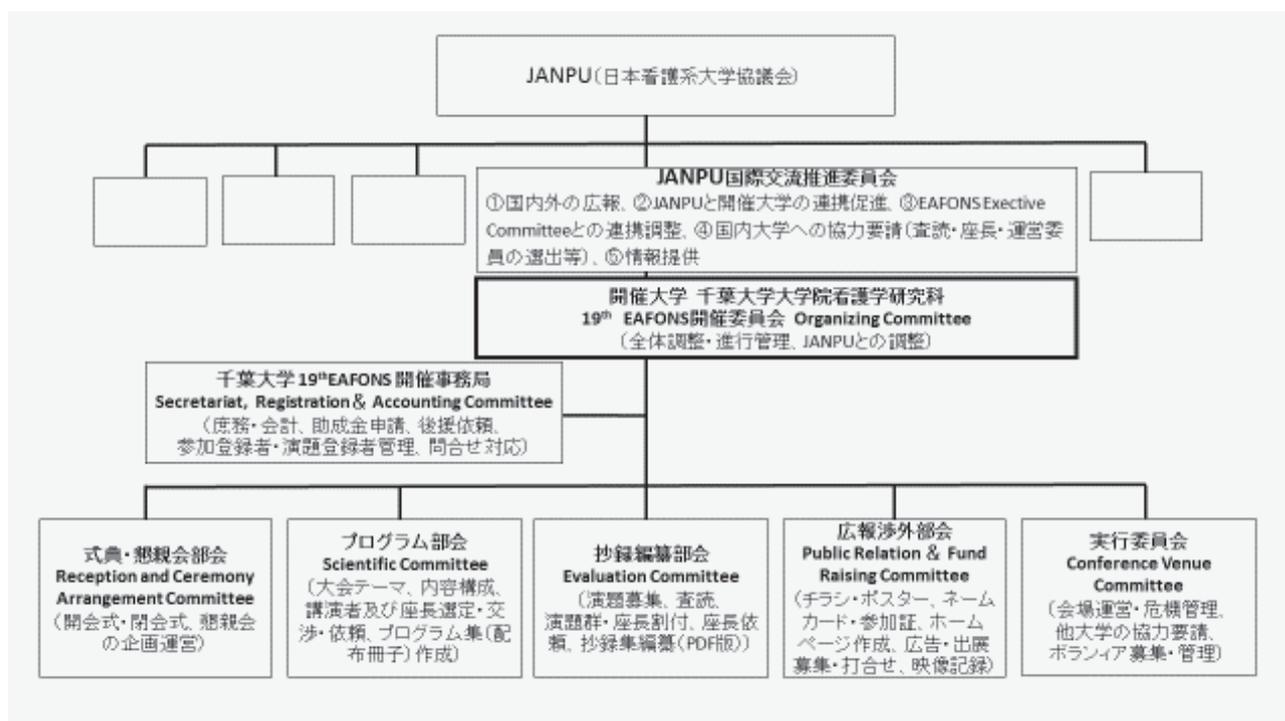


図 19th EAFONS 開催委員会 組織図

2. 趣旨

EAFONS は、1997 年から東アジアで年一回開催されている看護系大学の博士課程修了生、大学院学生、若手教員を対象とする国際フォーラムである。EAFONS に参加する東アジアの国（メンバー）は、現在、7カ国（香港、タイ、韓国、フィリピン、台湾、シンガポール、日本）である。

EAFONS は、東アジア諸国の研究者による講演、パネルディスカッション、そして学生も含めた口演・ポスター発表などの、意見交換の場を提供し、相互に刺激し合い、国際的視野で切磋琢磨することによって、看護系大学博士後期課程における教育内容の強化と情報の共有を目指し、各国の看護学の発展を促進していくことを目的としている。

3. 活動経過

1) 経過

19thEAFONS の開催に関して、日本看護系大学協議会（JANPU）より開催大学の公募がなされ、申請のあった千葉大学が、平成 26 年 10 月 3 日の理事会で開催大学として承認を受けた。その後、10 月 15 日に第 1 回開催委員会を千葉大学にて開催し、EAFONS の趣旨及び JANPU 国際交流推進委員会と千葉大学の連携による組織運営体制、今後のスケジュールについて確認した。以後、月 1 回開催委員会を開催し、各部会及び国際交流推進委員会との連携を図りながら進めた。

過去 3 年間の EAFONS での発表演題数が 400～500 題であることを踏まえ、19th EAFONS の参加者数の最少見積もりを当初 500 人（国内 320 人、国外 180 人）とし計画づくりを始めた。18th EAFONS が台湾にて平成 27 年 2 月 5 日～6 日に予定されており、19th EAFONS の紹介アナウンスができるよう、会場及び日程の確定、メインテーマの決定、フライヤー作成、ホームページの開設、イベント業者の選定、趣意書の作成、後援団体の確保、助成金及び寄付等の資金獲得、査読者及び座長の募集に着手した。

会場は、交通の利便性と収容人数の融通性のあることを重視し、幕張メッセ国際会議場を確保するこ

とができた。またイベント業者は、国際学会対応力、実績、価格、総合力を選定基準とし、4社から資料提出を求め、学内審査の結果、1社を選定した。

メインテーマは、Leadership Challenges for Advanced Doctoral Education in Nursing に決定した。また Keynote Speaker の候補者選定、Plenary Session のテーマを2つ設定することとし、Collaborative Education 及び Transforming Practice に決定した。

18th EAFONS (台湾) 直後に、19th EAFONS のホームページをオープンし、演題募集、参加者登録を開始した。演題登録は、期日までに、総応募演題数 697 あり、重複応募などの削除後、査読対象演題数 683 (発表形式別内訳 口演 126, ポスター557) とした。呼びかけに応じてくれた会員校の査読委員 285 名の協力により査読を行い、口演 103、ポスター543 を採択した。

2) 当日のプログラム及び参加者状況

参加者総数は、1,002 名で、EAFONS メンバー7 か国 (香港、タイ、韓国、フィリピン、台湾、シンガポール、日本) に加え、インドネシア、マレーシア、英国、米国、中国からも参加者を得、計 12 か国より看護学研究者が参加した (別添資料 2 参照)。

Keynote Address (基調講演) は、アメリカ合衆国のジョンズ・ホプキンス大学の看護学部長であるパトリシア・ディビッドソン氏を迎えて “Global Trends in Research-Focused Doctoral Degrees : Disruptive Innovation” と題し行われた。看護学の博士教育をめぐる世界的な潮流について説明し、学際的かつ国際的に看護のリーダーシップを高めるためには、PhD 教育を少数のエリート教育から、多様な価値を創造する教育へと広げていく破壊的イノベーションが必要であると述べた。そのために PhD 教育を伝統的教育から、ビジネスモデルの考え方を含んだ教育へと変革していく必要性があり、具体例として、早期入学プログラム、対面とオンラインのハイブリッドプログラム、ビジネス・マネジメントに関する教育内容の導入、教えることからガイドすることへの教員役割の変革、学生の能力アセスメント手法の確立等、について述べ、参加者は熱心に聞き入っていた。

Special Lecture (教育講演) では、イギリスのハル大学看護学科長であり、the Journal of Advanced Nursing の主力編集委員であるマーク・ヘイター氏が “Writing for Successful Publication” をテーマとして講演が行われ、活発な質疑が繰り広げられた。

このほか、プレナリーセッション (2 題)、口演発表 (100 題)、示説発表 (543 題)、災害看護グローバルリーダー養成プログラム (博士課程教育リーディングプログラム) 在籍の大学院生が主催した 2015 年から 2030 年の災害リスク軽減に向けた看護学研究者からの方策提案 “Sendai Framework” に関するセミナー、大学院生交流会といった多彩なプログラムを提供し、大学院生をはじめ、参加者同志、活発な討議と情報交換が行われた。閉会式にて、ポスターアワード賞 (学生対象) の選考結果を発表し、金賞 1 名、銀賞 3 名が受賞し、高田代表理事より賞状が授与された。

19th EAFONS の実施にあたっては、以下の団体及び個人より支援をいただいた。御礼を申し上げる。

後援：文部科学省、日本看護協会、千葉県、千葉市、ちば国際コンベンションビューロー

助成金：テルモ科学技術振興財団、公益財団法人上原記念生命科学財団、千葉コンベンションビューロー
国際センター、千葉大学国際交流事業

寄附者：11 団体、個人 32 名

展示：10 企業等、広告：16 企業等

傷病者対応後方支援：千葉大学医学部附属病院

なお、次回 20th EAFONS は、2017 年 3 月 9 日-10 日、香港にて開催される予定である。

3) その他の関連実施事項

19th EAFONS の翌日、3月16日に、EAFONS Executive Committee メンバーを対象に、千葉大学医学部附属病院見学ツアーを企画・実施した。3名の参加者があり、附属病院看護部6名の協力を得た。

4) 参加者アンケートの結果

105名より回答を得た。テーマ設定は「非常によい」「よい」73.3%、プログラム内容は「非常によい」「よい」80.0%、会場は「非常によい」「よい」77.2%、知識向上への満足度は「非常によい」「よい」76.2%、交流促進の満足度は「非常によい」「よい」60.0%、基調講演は「非常によい」「よい」63.8%、教育講演は「非常によい」「よい」73.3%、プレナリーセッションは「非常によい」「よい」63.8%、43.8% 大学院生の交流集会は「非常によい」「よい」43.8%（ただし無回答34.3%）、オーラルプレゼンテーションは「非常によい」「よい」69.5%、ポスタープレゼンテーションは「非常によい」「よい」69.6%、ポスター賞は「非常によい」「よい」47.7%（ただし無回答34.3%）、懇親会は「非常によい」「よい」61.9%（ただし無回答26.7%）、茶菓は「非常によい」「よい」80.0%であった。自由回答には、もっと討議や交流できる時間や場があると良い、飲食への宗教的配慮を望む等の意見があった。

4. 今後の課題

1) 開催大学決定の早期化について

今回の開催大学の決定経緯は、JANPU 役員交代による理事会新体制となって早々の、平成26年7月13日の理事会で初めて議題にあがり、その後会員校への公募プロセスを経て、平成26年10月3日理事会にて開催大学決定がなされたものである。開催までに1年5か月余であり、会場選定から運営組織体制づくりまでに非常にタイトなスケジュールであった。EAFONS は現在7か国で構成しており、7年に1度、日本は開催国となることが分かっていることから、役員任期の交替する前年度に（開催年の概ね3年前）、日本での開催主体（開催大学等）を決定するのが適切と考える。

2) 運営組織体制の在り方について

開催大学決定から開催までの時間が短かったことから、運営体制はJANPU 国際交流推進委員会と、開催大学1校との間での連携方式を進めた。今後、開催までの準備期間が充分確保できるようであれば、開催大学は複数校による連合方式も可能であると考えられる。

3) 座長の各国のバランスについて

日本ばかりでなく EAFONS の Executive Committee を通じて、メンバー国からも座長を依頼し、参加者登録者の中からも適任者に直接連絡を入れて確保に努めたが、日本23名、海外13名であった。

4) 文化的配慮について

ランチボックスにベジタリアン向けの内容を用意したが、懇親会会場での飲食にも配慮が必要であったように思う。会期時間中に宗教上お祈りの習慣のある参加者も複数いることが分かり、急きよ、会場内にお祈り部屋を追加で確保した。今後は、あらかじめそのような配慮も予定しておく必要がある。

5. 資料

資料1：プログラム

資料2：参加者数、演題発表数（口演・ポスター）及び座長

資料3：参加者アンケート集計結果

資料4：一般社団法人日本看護系大学協議会 第19回東アジア看護学研究者フォーラム開催委員会規程

資料5：写真

資料1 プログラム

○Keynote Address

“Global Trends in Research-Focused Doctoral Degrees: Disruptive Innovation”

Speaker: Prof. Patricia Davidson, PhD, MEd, RN, FAAN.

Dean, School of Nursing, Johns Hopkins University, USA.

Moderator : Prof. Misako Miyazaki Chiba University, JPN

○Special Lecture

“Writing for successful publication”

Speaker: Prof. Mark Hayter , PhD , RN, MMed. Sci, BA (Hons) Cert. Ed, FAAN

Head of the Nursing Department at the University of Hull, United Kingdom & Editor of the Journal of Advanced Nursing

Moderator : Prof. Kiyoko Makimoto Osaka University, JPN

○Plenary Session 1 “Collaborative Education”

Moderator: Prof. Lian-Hua Huang ,National Taiwan University, TWN

Speaker: Prof. Ikuko Sakai, Assoc. Prof. Kieko Iida, Chiba University, JPN

Prof. Josephina A. Tuazon ,University of the Philippines Manila, PHL

Prof. WipadaKunaviktikul ,Chiangmai University, THA

○Plenary Session 2 “Transforming Practice”

Moderator: Prof. ShizueSuzuki,Kobe City College of Nursing, JPN

Speaker:Prof. Alex Molasiotis,Hong Kong Polytechnic University, HKG

Prof. Bok Yae Chung,Kyungpook National University, KOR

Prof. Karis Cheng Kin Fong,National University of Singapore, SGP

○Disaster Nursing Global Leader Degree Program

“Let's Get Ready for Disaster Risk Reduction: The Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030 to Action Proposal from Nursing Scholars”

○Information Exchange for Graduate Students

Facilitator:Prof. Misuzu F. Gregg,Kobe City College of Nursing,JPN

○Oral Presentation (36 Session, 100 titles)

Adult Health 1, Cancer Nursing 1-3, Chronic Illness Nursing 1-3, Community Health Nursing 1-3,

Critical/Acute care 1, Cultural Nursing 1, Disaster Nursing 1-2, Family Nursing 1,

Gerontological Nursing 1-3, Home Care Nursing 1, Long Term Care 1, Maternity nursing 1-2,

Nursing Education 1-3, Nursing Ethics 1, Nursing Management/ Leadership 1,

Nursing Skills and Techniques 1, Pediatric nursing 1-2, Psychiatric and Mental Health

Nursing1-3, Research Method 1, Women`s Health 1-2

○Poster Presentation (543 titles)

資料2 参加者数、演題発表数（口演・ポスター）及び座長

1. 参加者数

国別件数表

	Country	登録者
1	Hong Kong	4
2	Indonesia	5
3	Japan	812
4	Malaysia	1
5	Philippines	11
6	Singapore	5
7	South Korea	12
8	Taiwan	137
9	Thailand	7
10	China	1
11	UK	4
12	USA	3
	総計	1002

カテゴリ別件数表

Category		件数
Professional: Domestic	REGULAR	480
	LATE	129
Professional: Overseas	REGULAR	95
	LATE	19
Student: Domestic	REGULAR	157
	LATE	23
Student: Overseas	REGULAR	63
	LATE	4
Professional	ON-SITE	8
Student	ON-SITE	4
Invited		20
		1002

2. Reception 参加登録者数

Social Program	Number
Reception on March 14th	534

3. 発表者数及び座長 Presentation Number 643 (Oral100、Poster543)

	Number			
	Oral (100)	Poster (543)	Total (643)	Moderator (36)
Member				
Hong Kong	2	0	2	1
Japan	44	425	469	23
Philippines	8	1	9	2
Singapore	3	2	5	2
South Korea	4	6	10	0
Taiwan	30	105	135	6
Thailand	0	2	2	1
Nonmember				
Indonesia	6	0	6	1
Malaysia	0	1	1	0
China	0	1	1	0
USA	2	0	2	0
UK	1	0	1	0

資料3 参加者アンケート集計結果

回答者1) Position:				回答者2) Country:			
		件数	%			件数	%
1	Professional	70	65.40%	1	Domestic	68	64.80%
2	Student	35	32.70%	2	Overseas	32	30.50%
3	Blank	2	1.90%	3	Blank	5	4.80%
延べ計		107	100.00%	計		105	100.00%
問1) The theme of this forum was clearly stated.				問2) The program forum was well organized.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	2	1.90%	1	Very poor	2	1.90%
2	Poor	1	1.00%	2	Poor	1	1.00%
3	Satisfactory	20	19.00%	3	Satisfactory	16	15.20%
4	Good	38	36.20%	4	Good	44	41.90%
5	Excellent	39	37.10%	5	Excellent	40	38.10%
6	Blank	5	4.80%	6	Blank	2	1.90%
計		105	100.00%	計		105	100.00%
問3) The location of this forum was convenient.				問4) This conference increased my knowledge.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	4	3.80%	1	Very poor	2	1.90%
2	Poor	5	4.80%	2	Poor	3	2.90%
3	Satisfactory	14	13.30%	3	Satisfactory	19	18.10%
4	Good	36	34.30%	4	Good	50	47.60%
5	Excellent	45	42.90%	5	Excellent	30	28.60%
6	Blank	1	1.00%	6	Blank	1	1.00%
計		105	100.00%	計		105	100.00%
問5) This conference increased my professional connections.				問6) I am satisfied with keynote address.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	2	1.90%	1	Very poor	1	1.00%
2	Poor	9	8.60%	2	Poor	2	1.90%
3	Satisfactory	28	26.70%	3	Satisfactory	21	20.00%
4	Good	34	32.40%	4	Good	33	31.40%
5	Excellent	29	27.60%	5	Excellent	34	32.40%
6	Blank	3	2.90%	6	Blank	14	13.30%
計		105	100.00%	計		105	100.00%
問7) I am satisfied with special lecture.				問8) I am satisfied with plenary session.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	1	1.00%	1	Very poor	1	1.00%
2	Poor	2	1.90%	2	Poor	2	1.90%
3	Satisfactory	12	11.40%	3	Satisfactory	24	22.90%
4	Good	40	38.10%	4	Good	37	35.20%
5	Excellent	37	35.20%	5	Excellent	30	28.60%
6	Blank	13	12.40%	6	Blank	11	10.50%
計		105	100.00%	計		105	100.00%
問9) I am satisfied with information exchange for graduate students.				問10) I am satisfied with oral presentation.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	1	1.00%	1	Very poor	1	1.00%
2	Poor	6	5.70%	2	Poor	3	2.90%
3	Satisfactory	16	15.20%	3	Satisfactory	24	22.90%
4	Good	23	21.90%	4	Good	48	45.70%
5	Excellent	23	21.90%	5	Excellent	25	23.80%
6	Blank	36	34.30%	6	Blank	4	3.80%
計		105	100.00%	計		105	100.00%

問11)I am satisfied with poster presentation.				問12)I am satisfied with poster awards.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	1	1.00%	1	Very poor	0	0.00%
2	Poor	5	4.80%	2	Poor	2	1.90%
3	Satisfactory	22	21.00%	3	Satisfactory	17	16.20%
4	Good	43	41.00%	4	Good	28	26.70%
5	Excellent	30	28.60%	5	Excellent	22	21.00%
6	Blank	4	3.80%	6	Blank	36	34.30%
計		105	100.00%	計		105	100.00%
問13)I am satisfied with reception.				問14)I am satisfied with food, coffee and tea.			
		件数	%			件数	%
1	Very poor	1	1.00%	1	Very poor	3	2.90%
2	Poor	3	2.90%	2	Poor	7	6.70%
3	Satisfactory	8	7.60%	3	Satisfactory	9	8.60%
4	Good	31	29.50%	4	Good	36	34.30%
5	Excellent	34	32.40%	5	Excellent	48	45.70%
6	Blank	28	26.70%	6	Blank	2	1.90%
計		105	100.00%	計		105	100.00%

資料4 一般社団法人日本看護系大学協議会第19回東アジア看護学研究者フォーラム開催委員会規程

第1章 総則

(目的)

第1条 本規程は、第19回東アジア看護学研究者フォーラム開催委員会（以下「本委員会」という。）の構成及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(名称)

第2条 本委員会は、第19回東アジア看護学研究者フォーラム開催委員会と称する。英文名は、19thEast Asian Forum of Nursing ScholarsPlanningBoard と称し、略称は、19EAFONSPBとする。

(事務局)

第3条 本委員会は、事務局を千葉大学大学院看護学研究科に置く。

(任務)

第4条 本委員会は、次に掲げる事項を任務とする。

- (1) 第19回東アジア看護学研究者フォーラム（19thEast Asian Forum of Nursing ScholarsPlanningBoard：19EAFONS）の企画・運営・事後処理
- (2) 第19回東アジア看護学研究者フォーラム（19EAFONS）の開催
- (3) 第19回東アジア看護学研究者フォーラム（19EAFONS）のホームページ作成、運営及び管理
- (4) 学術集会の開催
- (5) 前各号に附帯する一切の事項

第2章 委員会ならびに委員会役員構成

(委員の選任)

第5条 本委員会に委員は、58名以内とし、学識経験者のうちから、理事会が選任する。

(本委員会役員)

第6条 本委員会に、次の役員を置く。

- (1) 委員長 (学術集会開催大学代表) (以下「委員長」という) 1名
- (2) 副委員長 (学術集会開催大学副代表) (以下「副委員長」という) 1名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 委員会監事 2名

(本委員会役員選任)

第7条 役員選任方法は次の各号のとおりとする。

- (1) 委員長は、理事会が選任し、代表理事が委嘱する。
- (2) 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。
- (3) 事務局長は、委員長が委員の中から指名する。
- (4) 本委員会監事は、理事会が選任し、代表理事が委嘱する。

(委員の任期)

第8条 委員の任期は、理事会承認後から2016年6月30日までとする。

(役員職務)

第9条 委員は次の職務を行う。

- (1) 委員長は、本委員会を代表し本委員会の業務を統括する。
- (2) 副委員長と事務局長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは副委員長がこれを代行する。
- (3) 本委員会監事は、委員長の職務の執行を監査する。また、監事は、いつでも、委員長に対して事業の報告を求め、本委員会の業務及び財産状況の調査をすることができることとし、その結果を理事会に報告する。

(部会)

第10条 委員会の中に5つの部会を組織し、各部会員の1名を部会長とする。

(会議)

第11条 本委員会の会議(以下、「会議」という。)は、必要に応じ、委員長が随時招集する。

- 2 会議を招集しようとするときは、委員に対し、予め議題、日時、場所その他必要な事項を通知しなければならない。
- 3 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 4 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決する。

第3章 学術集会

(学術集会)

第12条 本委員会は、2016年3月14日から同年3月15日の期間に学術集会を主宰する。

(学術集会開催大学代表の職務)

第13条 学術集会開催大学代表は、学術集会の運営及び演題の選定などについて審議するため、委員会会議もしくは部会長会議を開催する。

第4章 会計

(収入)

第14条 第19回東アジア看護学研究者フォーラム開催に関する収入は次にあげるもので構成する。

- (1) 学術集会参加費
- (2) 本委員会活動に伴う収入
- (3) 寄附金品
- (4) その他

(収入の管理)

第15条 前条の収入は、委員長が管理し、委員のうち経理責任者が補佐する。

(経費の支弁)

第16条 本委員会の経費は、第14条の収入をもって支弁する。

(事業計画及び収支予算)

第17条 本委員会の事業計画書及びこれに伴う収支予算書は、委員長が作成し、委員会での決定後、理事会の承認を受けなければならない。

(事業報告及び収支決算報告)

第18条 本委員会の事業報告及び収支決算書は、学術集会終了後の3箇月以内に委員長が、収支決算書を作成し、委員会監事の監査を受け、委員会での承認後、さらに理事会に報告し承認を受けなければならない。

(会計原則)

第19条 本委員会の会計は、一般に公正妥当と認められる公益法人の会計原則に従う。

附則 この規程は、2014年11月21日から施行する。

附則 この規程の改正は、2015年1月14日から施行する。

資料5 写真

<国際会議場入り口、受付、メイン会場入り口の様子、展示スペース>



国際会議場入り口



受付の様子



後援の千葉県のマスコットキャラクター
“チーバくん”



展示スペース

<Opening Ceremony>



徳久剛史千葉大学学長の開会宣言



EAFONS Convenor
Karis Kin-Fong Cheng 氏の挨拶



高田代表理事による挨拶



宮崎開催大学代表による挨拶

< Keynote Address >



講演する Patricia Davidson 氏



< Special Lecture >



講演する Mark Hayter 氏



< Plenary Session 1 >



講演する 酒井郁子氏



講演する Josefina A. Tuazon 氏



講演する WipadaKunaviktikul 氏



<Plenary Session 2>



講演する Alex Molasiotis 氏



講演する Bok Yae Chung 氏



講演する Karis Kin-Fong Cheng 氏

<Oral Presentation>



<Poster Presentation>



< Information Exchange for Graduate Students >



< Disaster Nursing Global Leader Degree Program >

災害看護グローバルリーダー養成プログラム（博士課程教育リーディングプログラム）
在籍の大学院生が主催



< Lunch >

1、2階ロビーでランチチケットとの引き換えでお弁当を受け渡した。普通食とベジタリアン食の2食を準備した。



< Break >

1、2階ロビーで、ドリンクとデニッシュやクッキーなどを提供した。
1日目は、午前と午後、2日目は午前に提供した。



<Reception>



折り紙でのおもてなし



講演者への記念品贈呈



千葉大学教員によるピアノ演奏



千葉大学看護学部公認サークル
“舞部”によるダンス



次期開催国香港の EAFONS
Executive Member 挨拶

< Closing Ceremony >



諏訪事務局長による挨拶



次回開催国の香港の EAFONS Executive Member による挨拶



次回開催国の香港によるサプライズ



ポスタープレゼンテーション授賞式

